

## 清野委員からの意見

平成19年9月25日

- (1) 底質調査において、  
市川航路周辺の浅海域や塩浜護岸前面付近で中央粒径が小さくなり、シルト粘土分が高い値を示すなど変動が見られたこと。
- ・干潟や浅海域への外力への変化の解析が必要です。  
三番瀬全体の波浪、潮位、風のデータを統合化して、考察しやすいようにお願いいたします。  
航路への土砂の流出、江戸川放水路の情報を整理してください。  
航路掘削時の粒度分析もお願いしていると思います。
- (2) 底生生物調査において、  
平均個体数が、平成14年度調査や本年度の値が補足調査にくらべて小さくなっていること。
- ・水温や塩分のデータはどうでしたか？  
県内や国などの情報を収集していただくお願いをしました。
- (3) 底生生物調査の湿重量においては、  
本年度の値が、補足調査や平成14年度調査に比べて、特に春季・夏季における数値が小さくなっていること。(特にアサリが減っていることが寄与しているのではないかと考えられる。)
- ・今後、アサリもふくめて、漁業情報をきちんと開示していただかないと、考察に影響してきます。  
いい考察をして、対策を考えたいという意志を、三番瀬再生会議の専門家ももっているので、ご協力をお願いしたいと思います。今回のデータも、その例として、漁業関係にお伝えいただけると幸いです。
- (4) 群集組成の類似度による海域区分(類似度0.3区分)では、猫実川河口周辺において、過去の調査において主要種であったウミゴマツボやニホンドロソコエビに変わり、本年度調査では、コケゴカイ、ミズヒキゴカイ、イトゴカイ科が高い構成比を示したこと。
- 粗砂との関係を見てください。